

渋谷でマナブ

第 8 号

発行 平成30年10月

巻 頭 言

日本の大学入試と 高大接続教育について考える

東京渋谷学習センター 所長 宮本 文人



日本では、自国の大学入試や、大学への進学指導に重点をおく高等学校教育が国際的に見ても一般的であると思っている人が多いのではないのでしょうか。それは、影響力が大きいマスコミやメディアと呼ばれる職業の人たちが、一般の人たちと同じように考え、海外の状況を調べずに、きちんと報道しないからだと思います。日本では、大学入試が、あまりにも過大評価されているように感じますし、高校と大学の教育には大きな断絶があります。近年では、高大接続教育という言葉もよく聞きますが、教育の不連続性を解消するものなのでしょうか。

日本における大学入試や高大接続教育の在り方を評価する一つとして、海外の状況を調べて、国際比較する方法があります。そこで、欧米先進諸国の状況と比べながら、次の二つの観点から考えたいと思います。第一は、大学入試制度の状況であり、第二は、大学入学前の段階における学習内容です。

まず、欧米先進諸国の例としてイギリス、アメリカの教育制度や大学入学の状況を紹介したいと思います。イギリスは4つの国の連合国ですので、イングランドの状況を紹介します。大学は、主に専門課程を勉強するところで、3年制になっています。大学への入学許可は、中等学校（11～16歳）修了時の全国試験結果、6th FORM（17～18歳）（日本の大学1、2年の教養課程に相当する過程で、大学の専門教育への準備を行う）修了時の成績、願書の書類選考で行われます。さらに、大学によっては面接試験があります。特に、オックスフォード大学やケンブリッジ大学は、世界的に見ても特別な大学で、カレッジ（寄宿舎であり教育機関でもある）毎に面接が行われ、入学が許可されます。

アメリカでは、大学は4年制で、学部が1つでリベラルアーツ教育が行われます。日本のように専門別の学部がありません。入学許可は、大学ごとに異なりますが、基本的には中学校と高等学校の成績、全国標準試験の成績（SAT等）、高等学校の推薦書、課外活動調査等の書類選考により行われます。面接を行う大学もあり、ハーバード大学のような一流大学では面接が必須です。

次に、大学入試前における学習について紹介します。ヨーロッパでは通常、大学は3年制が多く、日本の教養課程の学習は大学入学前に修了していることになっています。アメリカでは、高等学校で大学教育の一部が行われています。高校によりますが、APクラスと指定された科目の単位は州立大学等では1、2年生科目の単位となります。APクラスは、一流大学では単位となりませんが、入学許可をもらうために必要となります。また、高校時代に州立大学で授業を受講して大学と高校の単位を同時に取得する制度もあります。アメリカでは、高校と大学との接続がかなり柔軟です。

日本の大学入試は、欧米先進諸国の状況からみると、一般的ではありません。この大学入試制度と教育制度のせいで高等学校と大学の教育がかなり不連続です。多くの高校生は、大学入試の受験準備に時間を費やすことで高校段階の学習にとどまり、高度な学習を早期に行い、能力を一層伸ばす機会を失っています。また、何故、日本の大学別入試で出題ミスが起こるのかも推測して頂けるかと思います。

日本で高大接続という言葉が使われるようになって、約20年経つそうです。しかし、それが、遅々として進まないのが現状で、これが日本の特質なのかも知れません。いずれにせよ、日本の教育について、他の国にはない良いところがあると思いますが、全体的にみると、入試制度を含めて、連続性を考慮して、広い観点から、小学校、中学校、高等学校、大学の教育について接続を本格的に見直す必要があると考えています。

目 次

巻頭言「日本の大学入試と高大接続教育について考える」…………… 1

東京渋谷学習センター所長 宮本文人

コ ラ ム

「それって、ほんとうですか？」 大野隆造 …………… 2

「新聞書評の仕組み」 宮下志朗 …………… 3

東京渋谷学習センター 第2学期予定表 …………… 4

第1学期卒業証書・学位記授与式、東京学友同窓会 …………… 5

面接授業科目の追加登録について …………… 6



それって、ほんとうですか？

大野隆造

放送大学客員教授（東京工業大学名誉教授）



表題は私が大学で研究をはじめてから、声には出さないまでも、心の中で何度となく繰り返し発してきたフレーズである。研究発表を聞いていても、論文を読んでも、いつも心の中で呟いていた。研究マインドとして大切なことに「疑う心」がある。つまり聞いたり読んだりしたことを簡単には受け入れないでいったん疑い、自分で納得できるまで調べたり考えたりする姿勢である。

これは研究に限らず、大学の教室で講義を聞くとときも同じである。大学は、高校までのように確立された知識について教員資格を持った教師が教える場と違って、研究者である教師がその時点で最も正しいと信じる知見や考え方を学生に示し、ともに考える場である。いきおい、あまりエビデンス（証拠）が十分ではない「最先端」の内容が含まれることもある。

実際に、先日の渋谷246セミナーでの講義後、一人の受講者から、私の語り口が講義内容のエビデンスの確かさによって、微妙に変化していることに気付いたと言われた。自分では全く意図することなく無意識のうちに伝えたニュアンスの違いを聞きわけたその受講生の観察力に驚かされた。そこまでゆかなくとも、学生は聞いた内容をただ鵜呑みにするのではなく、自分で反芻する過程が必要である。簡単に受け入れた知識は身につかず簡単に失われてしまう。

日常生活においても、さまざまな経路でもたらされる膨大な情報の真偽を判断することが求められている。フェイクニュー

スのような意図的で極端な例でなくとも、不正確な情報が巷にあふれている。やはり「それって、ほんとうですか？」と問う必要がある。

インターネットを通して膨大な情報が容易に得られる一方で、それを通して受け取る情報が知らないうちに偏ってしまう危険性が指摘されている。そのひとつは、似た価値観を持つ者同士のSNSによるやり取りが招く「エコー・チェンバー現象」、つまり自分と同じ意見だけが跳ね返って来て共鳴し合い、異なる意見が遮断されて、自分たちだけが正しいと考えてしまう傾向である。もうひとつは、インターネットによる検索サービスが、検索履歴から推定した好み情報に偏った結果を提示するために生じる「フィルターバブル」、つまり利用者を包み込むバブル（泡）状のフィルターで他の多様な情報を排除してしまう問題である。

豊富な情報へのアクセスが容易になった今日、その便利さに流されているうちに、むしろ心地よい偏った情報のみに囲まれて生活するという逆説的な状況になりかねない。このような仮想のサイバー空間に安住していると、従来のさまざまなノイズを含む現実の生活空間においては不可欠であった、有用な情報を汲み取る認知的スキルが退化してしまいかねない。サイバー空間から生の環境に立ち戻って、そこでの豊かな実体験を通して真偽を嗅ぎ分ける感性を保持し養ってゆきたいものである。

新聞書評の仕組み



宮下志朗

放送大学客員教授（元放送大学特任教授）

わたしは現在、某全国紙の「読書委員」をしています。他紙では「書評委員」といったりするようですが、それはともかくとして、日刊紙の書評について、どのようなシステムになっているのかを解説してみましょう。

三大紙（朝日、毎日、読売）は、いずれも委員システムを採用しています。つまり、書評を執筆する委員の枠を決めていて、毎年、少しずつメンバーを交替していく方式です。これ以外の新聞は、その都度、書評を依頼して執筆してもらう方式です。ここでは、前者の方式についてお話します。三大紙でも、朝日・読売と毎日では、やり方が異なります。前者は「委員会方式」といって、月に何度か新聞社に集まって、選書をおこなうスタイルを守っています。これに対して毎日は、委員会での合議システムはありません。池澤夏樹、養老孟司、佐藤優等々、豪華メンバーを揃えて、自由に書評してもらうというスタイルで、1990年代に丸谷才一が始めたといわれます。ただし毎週、新刊情報が執筆者（約30人）に届けられ、基本的にはそこから選んで書評を書いているようです。書評の字数も、他紙よりは多くなっています。三大紙といっても、毎日は他の二紙にぐんと差をあけられていますから（部数低迷のため、2008年には北海道管内での夕刊を廃止、スリム化に舵を切った）、この方式は経費節約の意味でも合理的だと思います。有名どころによる書評は新聞の目玉になっていて、書評欄を目当てに、日曜日に毎日新聞を買う人も多いとの噂です。いま、日曜日といましたが、最近、朝日と日経の書評欄は土曜日掲載に変わりました。校閲部の過重労働などが理由だと聞きましたが、本当の理由は不明です。

「委員会方式」では、通常は月に二度、夕方近くに新聞社に集まります。会議室の端のテーブルには、本がたくさん並んでいます。むろん、この段階で、編集部の記者の手によって選別がおこなわれていて、選ばれたもの、つまり書評にふさわしいのではないのかという本が並んでいるわけです。委員は、記者や他の委員などと

雑談や情報交換をしながら、これはと思う本を書評検討本として選び出して、これを回覧します。やがて選書委員会が始まります（その前に弁当を食べます）。最初に、前回の検討本の結果を各人が報告し、書評したい本に関してはその理由を説明します（なお、委員である期間は、自著は書評の対象にはなりません。これを了承した上で委員になるのです）。わたしが委員をしている新聞には「大評」「小評」の区別があり、これも決めなくてはなりません。あとは、同じ日に同一出版社の本の書評を複数掲載することは避けるというルールもあり、こうした調整をした上で、執筆する書評と掲載日が決定されます。その後、持ち帰り本、つまり書評候補として読んでみたい本についても、簡単な説明をします。本の山になくても、委員が是非とも思う作品は、「持ち込み」といって、自分で持参して、説明をおこない、書評候補にすることができ、時には、その場で書評決定というケースもあります。

以上でお開き、二次会に移動します。とはいえ、会社の経費でただ酒を飲むわけではなく、われわれも一部を負担します。委員会にはない名物記者のUさんも合流して、あれやこれやとおもしろおかしい話をしたあとで、解散します。もう、夜中です。Uさんは会社に泊まるとのこと。徹夜で輪転機を動かす印刷スタッフのために昔は大浴場もあったが、いまはないんだよね。こういって、彼は会社に戻りました。翌日は、芥川賞・直木賞の発表です。彼は会社から駆けつけて、受賞者にインタビューするのでしょうか。候補作を全部きちんと読んでるのは彼ぐらいしかいないと、ほかの場所で聞いたことがあります。彼はまた、書評欄の埋め草記事（最終段階で、空きが出ると、急遽、なにか短評などで埋めないといけません）、これは記者が担当するしかありません）も、すばやく書いてくれます。こうした優れた記者たちに支えられて、新聞の書評は、毎週、確実に読者の元に届けられるのです。新聞を読みましょう、書評欄ももちろん。

平成30年度 第2学期

10

October

月	火	水	木	金	土	日
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30	31	*	*	*	*

11

November

月	火	水	木	金	土	日
*	*	*	1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30	*	*

12

December

月	火	水	木	金	土	日
*	*	*	*	*	1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30
31	*	*	*	*	*	*

1

January

月	火	水	木	金	土	日
*	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30	31	*	*	*

2

February

月	火	水	木	金	土	日
*	*	*	*	1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	*	*	*

3

March

月	火	水	木	金	土	日
*	*	*	*	1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	31

閉所(月曜、祝日、学長又はセンター所長が
定めた日)

面接授業 10/17~2/10

入学者の集い 10/7

単位認定試験 1/24~2/2

教員免許更新
講習試験 3/2・3

図書・視聴学習室
のみ閉室 12/28、1/5、3/30・31

開所時間 ※1

	センター	図書・視聴学習室	事務室
通常期間 火～日	9:30～18:00		9:30～12:00 13:00～18:00
単位認定試験期間	8:30～19:00	9:30～18:30	9:00～12:00 12:45～19:00
教員免許更新講習試験期間	9:00～18:00	9:30～18:00	9:30～12:00 13:00～18:00

※1 規則等の改正により、開所・閉所日及び時間は、年度の途中でも変更になることがあります。
詳しくは学習センターの掲示板またはホームページをご覧ください。

平成30年度 第1学期 卒業証書・学位記授与式

東京渋谷学習センターでは、平成30年9月22日(土) AP 渋谷道玄坂(渋谷シネタワー)において「卒業証書・学位記授与式」を開催しました。

卒業生・修了生は、合計131名で、当日は出席された48名の卒業生ひとりずつに、宮本所長から卒業証書・学位記を授与しました。

式典後には、集合記念写真を撮り、卒業生同士お互いの労をねぎらいました。また、所長との記念写真を撮ろうと長蛇の列が出来ていました。



皆様、ご卒業おめでとうございます。教職員一同、心よりお祝い申し上げます。

【卒業生・修了者数】

年度 学期	H30	H29		H28		H27		H26		H25	
	1 学期	1 学期	2 学期	1 学期	2 学期	1 学期	2 学期	1 学期	2 学期	1 学期	2 学期
学部	130	136	188	127	178	101	153	89	120	63	133
大学院	1	2	38	0	39	0	34	0	30	1	18

放送大学東京学友同窓会のご紹介

放送大学東京学友同窓会は、2018年5月に放送大学東京同窓会より名称を変更し、東京文京 SC・東京渋谷 SC の卒業生・在学生相互の交流の場として、活動を展開しています。

＜主な同窓会活動＞

- 生涯学習に関わるイベント活動(学園祭時その他)
- 講演会の開催(総会時)
- 行事のご案内と実施(年5回程度)
 - ①新入会員歓迎行事
 - ②世界遺産巡り
 - ③新春芸能鑑賞会
 - ④文京サロンの開催
 - ⑤地域交流会の開催(会員と役員との交流会)
- 同窓会会報の発行(年2回)
- 学園祭開催への協力(主催:学園祭実行委員会<サークル・東京文京 SC・同窓会>)
- 大学への協力(入学者の集い、卒業修了祝賀会への協力等 *東京文京 SCにおいて実施)

放送大学での学習は基本的に孤独な営みですが、「学友同窓会」にはそのような侘しさを乗り越えてきた先輩が大勢います。多様な経験を積んだ卒業生に学習仲間としてお話を聞いていただくことも可能です。学友同窓会が企画する行事には会員以外の方の参加も歓迎しています。

ご興味のある方は、ホームページ <http://tky.ouj-dosokai.net/home> をご覧ください。

また、会報の一部をセンターに配架してありますので、併せてご覧ください。

平成30年度第2学期

面接授業科目の 追加登録について

科目登録状況により定員に満たなかった面接授業科目については、その科目を開設している学習センターで追加登録を受け付けます。

空席状況を、10月17日(水)12時から、各学習センターでの掲示、システムWAKABAでお知らせします。

10月24日(水)15時以降はシステムWAKABAで空席状況をリアルタイムで確認することができます。

なお、科目登録方法は、その面接授業を開設している学習センターにより異なりますので、具体的な受付方法については、それぞれの学習センターにお問い合わせください。

東京渋谷学習センターで開講している面接授業科目の 追加登録の方法は次のとおりです

A. 窓口 10月24日(水)より登録開始

受付初日の24日に限り、午前10時までに追加登録抽選会場に入室した方を対象に、登録する順番を決める抽選を以下の①～③の手順で行ないます。

申請の際には学生証と授業料が必要となりますので、忘れずにお持ちください。

- ① 24日9時30分に抽選会場を開場し、同10時に抽選会場の入場を締め切ります。
- ② 入場された方から学生証をお預かりし、抽選を行ないます。(30分程度)
- ③ その抽選により決まった順に学習センター窓口にて、面接授業科目追加登録申請書を提出、授業料をその場で現金で納入していただきます。

※ 窓口での随時登録受付はこの抽選会の終了後より先着順に開始し、科目ごとに定められた受付期限まで行います。

B. 郵送 10月17日(水)より受取開始(登録開始は25日から)

空席状況の発表後から、郵送での申請用紙と授業料の受け取りを開始します。

●面接授業科目追加登録申請書 ●所定の授業料

●学生証のコピー ●返信用封筒(宛先を記載、82円切手を貼付)

以上4点すべてを同封の上、現金書留により学習センターまでお送りください。

ただし、17日から登録初日(10月24日)までに到着したものはお預かりのみとし、10月25日に開封、空席があれば登録を行ないます。

期限内に郵便が届かなかった場合、申請した科目がすでに満席の場合、登録内容に不備がある場合は返送にかかる費用を差し引いた金額をお返しいたします。ご了承ください。